

立命館災害復興支援基金（復興+R 基金）での学生支援の取り組み（ご報告）

東日本大震災にかかわり、教育・研究を通じた復興支援をはじめ様々な取り組みを進めておられます立命館関係者のみなさま、教職員のみなさまに心より敬意を表します。あわせて、立命館災害復興支援基金（以下、「復興+R 基金」）へのご協力をはじめ、災害復興支援室の活動にご理解とご支援をいただき、深くお礼申し上げます。

災害復興支援室では、多くのみなさまからご賛同、ご寄付をいただいた復興+R 基金の趣旨に基づき、学生のボランティア活動支援や被災した学生への経済的援助といった取り組みを進めてきました。この間の取り組みをみなさまにご報告するとともに、「学生たちの声」の一部をご紹介します。

■ 学生ボランティアバス運行

<夏期休暇中の東日本大震災ボランティアバス運行への支援>

夏期休暇中に、学生部・サービスラーニングセンターが中心となり、正課外のサービスラーニングプログラムとして位置づけた、被災地での学生ボランティアバスを運行し、3 プログラムに立命館大学・APU の学生 101 名が参加しました。

10 月 1 日には合同で報告会を開催。教職員、他大学の学生も参加し、それぞれの経験を共有するとともに、今後の被災地復興支援についても意見交換を行いました。



<概要>

● 8/19-23 「スマイルエンジン山形プロジェクト」ボランティアバス (25 名参加)

宮城県石巻市での清掃等の活動、仮設住宅住民とのワークショップ手伝い等。

● 8/16-23 「気仙沼・暮らし楽しませ隊」ボランティアバス (サークル・団体より 26 名参加)

岩手県気仙沼市の仮設住宅で、サークル・学生団体の特色活かしたボランティア・交流を実施。

● 9/7-13、9/14-20 「いわて GINGA-NET プロジェクト」立命館バス (50 名参加)

岩手県気仙郡住田町を拠点に釜石市、大船渡市、陸前高田市、大槌町で活動。

● 10/1 ボランティアバス報告会の開催

ボランティアバス参加者を中心に、学生、教職員約 100 名が参加。

ボランティアバス運行にあたっては、現地での宿泊費や食費などについて学生が一定額を負担しつつ、現地までの移動費を中心に、復興+R 基金のうち「復興活動支援金」からの支援を行いました。なお、APU から参加した学生については、別府から京都までの移動費についても支援の対象としています。支援総額は約 5,980,000 円となっています。

<台風 12 号被害に関するボランティアバス運行>

台風 12 号の被害に関わっても、学生部・サービスラーニングセンターが中心となり、正課外のサービスラーニングプログラムとして和歌山県新宮へのボランティアバスを運行しました。

● 10/15-16、10/22-23 「台風 12 号被害・和歌山県新宮ボランティアバス」 (学生 29 名、職員 4 名参加)

和歌山県新宮市において、家屋の泥・砂利の運び出し、壁板撤去、畑の流木等の運び出し等の実施。

<ボランティアバス参加学生たちの声>

◆みんなの「+R for FUTURE」(RS WEB より抜粋)



「+R for 復興」

一人にできることは小さいけれど、現地で生まれも育ちも違う人がたくさんいる。みんなが集まれば、より近づけるのでは。その中の一人になればと。

〔野村和秀さん(政策科学部 3 回生)〕



「+R for 喜び」

向こうの人もボランティア活動を喜んでくれた。

「ありがたかった」と言ってくれてうれしかったので。

〔岡本翔平さん

(政策科学部 2 回生)〕



「+R for 亡くなった人達」

今生きている人もいる、亡くなった人がいる、それが被災地。生き残った人だけではなく、亡くなった人も人の心の中に生きている。忘れてはいけない。

その思いを大切にしていきたい。

〔山根美波さん(文学部 4 回生)〕



「+R for 多くの人へ伝える」

ボランティアを経験して、コミュニティを作るには長期的に、そして地域に密着することが必要だと思った。遠くの立命館ではそのむずかしさも感じた。関西からでもできることは、忘れかけられていることを、私たちが話して伝えることで、ちょっとでも「いってみるのもいいかな」という輪が広がって、思いやモノや人が集まって東北を支えられたら。

多くの人を巻き込んでいきたい。

〔山根早由里さん(国際関係学部 3 回生)〕

◆学生からのメッセージ



「考え続け、行動し続ける」

〔阿部辰樹さん

(政策科学部 3 回生)〕



「一瞬一瞬の積み重ねが

これからの未来を作っていく」

〔國頭梨奈さん

(産業社会学部 3 回生)〕



「今の生を大切に」

〔白井雄士さん

(文学部 4 回生)〕

今後も学生部・サービスマニシングセンターと連携し、春期休暇中の学生ボランティア活動や被災地以外(キャンパスを中心とした地域)で可能なボランティアへの支援についての具体化を検討していきます。

■被災した学生の生活面の経済支援「被災学生支援金」

復興+R 基金に、立命館に在籍する被災した学生の生活面を経済的に支援する奨学金「被災学生支援金」を設け、立命館大学・APUにてそれぞれ募集・選考（書類・面接）を行い、19名の採用を決定。11月から給付を開始しました。

制度の概要、採用決定者の所属学部・研究科などについては以下をご参照ください。今回の採用決定者 19 名の卒業・修了時までの被災学生支援金給付総額は 26,400,000 円を見込んでいます。

<概要>

●目的：立命館の学部・大学院に在籍する正規生で、修学の熱意を有しながら東日本大震災によって経済的困難が生じ、学生生活の継続が困難な者の生活費を援助する。

●給付期間：2011 年 4 月～修業年限まで

●給付金額：月額 5 万円

●採用決定者：全体で 19 名（学部生 16 名、院生 3 名）

[衣笠] 7 名（法学部 1 名、産業社会学部 2 名、国際関係学部 1 名、文学部 2 名、社会学研究科 1 名）

[BKC] 11 名（経済学部 4 名、理工学部 1 名、情報理工学部 2 名、生命科学部 1 名、薬学部 1 名、理工学研究科 1 名、テクノロジー・マネジメント研究科 1 名）

[APU] 1 名（アジア太平洋学部 1 名）

なお、震災後半年が経過してやっと罹災証明が交付されている例や、被災の混乱の中でこれまで相談に来ていない学生がいること、風評被害や原発事故による家計の急変等が見受けられることから、立命館大学では学生部と調整し第2次募集を行うことを決定しました。APUについてもステューデント・オフィスで第2次募集を検討いただいています。第2次募集の状況および結果についてはあらためてご報告させていただきます。

<被災学生支援金の給付が決定した学生の声>

◆衣笠

このたびは、「立命館大学災害復興支援基金による被災学生支援金」に採用していただきまして、誠にありがとうございます。残り半年を切った大学生活ですが、卒業までの間、有意義に修学や卒業論文の研究に時間を使っていると考えております。より専門的に存続した講義など、学問をいくつも学ぶ機会はないので、勉学に充てることで悔いのないように学生生活を送っていると思います。

国際関係 学部研究科 4 回生

この度、当支援金に採用頂き、バより感謝致しております。私は現在、4回生で、ちょうど卒業論文の作成に向けて研究を進めているところです。おかげで、最後に、学生生活を有意義に過ごすことができそうです。当支援金の趣旨をしっかりと受けとめ、自分自身の夢の実現のために、充実した日々を過ごしていきたいと思います。

文 学部研究科 4 回生

この度は、2011年3月11日に発生した東日本大震災に関連して、立命館大学災害復興支援基金の創設と、支援金の支給というご支援をいただき、誠にありがとうございます。学業をはじめ、今後の学生生活を有意義に過ごし、将来の夢の実現のためにも、大切に活用させていただきます。生涯、こういったご厚意と、立命館大学で学修に励んだことを忘れず、社会に貢献できる人間として活躍できるよう努力を重ねてまいります。

産業社会 学部研究科 3 回生

私は体育会に所属し、日々鍛錬し、勉学との両立できるように、努力しております。やはり、シーズンになびに入ると、部活動が忙しくなり、勉学の方にも影響がみられますが、今までの大学生活で、成績、単位などは、しっかり取得しました。これからの大学生活も、忙しくなりますが、持ち前の体力を生かし、継続的に授業参加、勉学に取り組んでいきたいと考えており、私にとって有意義な生活にします。

法 学部研究科 2 回生

◆BKC

今回の大震災に際して、私は多くの方々にさまざまな面で支えていただきました。みな様方の暖かい支援には感謝の気持ちでいっぱいです。今、自分がこのような環境で勉学に励むことができるのはみな様方のおかげです。そのことを肝に銘じて残りの学生生活をすごしていきたいと思っています。

経済学部・研究科 3 回生

採用していただき本当にありがとうございます。これからの学生生活では大学生の今しかできないことに失敗を恐れずたくさん挑戦していきたいです。また大学を卒業するまでに勉強や課外活動を通して、少しでも多くのことを身につけられるよう日々の生活から意識したいです。充実した大学生生活を送れるよう1日1日を大切に全てを全力で過ごしていきたいです。

理工学部・研究科 1 回生

学部生の頃、実習等を通して一歩ずつ真理に近づく喜びに魅せられ、修士課程に進学。当時の目標は、誰よりもユニークな方法で課題に迫ることであり、今もそれは同じです。今後学会における発表を通じ、思考表現力を更に磨き上げたいと考えています。

今皆様の暖かい御支援により、そのチャンスを得ることができました。

心から感謝を致します。

理工工学 学部・研究科 2 回生

この度は誠にありがとうございます。私はこの支援金を今後の生活費に充て、これまでと同じように学生生活を送っていきます。そして、今回支援してくださった方々への感謝を忘れず、より一層気合いを入れて修士論文の作成に取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

テクノロジー・マネジメント学部・研究科 2 回生

◆APU

私は今でも東日本大震災による被害とその恐ろしさも覚えています。現在では奨学金をいただき、学習に取り組める環境にあることに感謝しています。この気持ちも忘れずに奨学金受給者として恥じない成績を残し、APU生として誇りを持つ行動をすることを負荷とし、日々精進していきたいと思います。

アジア太平洋

学部・研究科 1 回生

■復興+R基金の状況について

11月15日現在の復興+R基金への寄付の状況は、給与からの引き去りを中心とした教職員からの寄付がのべ451人となっています。さらに、教授会懇親会、部課長懇親会等、立命館に関わる各団体からも多額の寄付をお寄せいただきました。

その他、「+R for FUTURE」グッズの売上の一部が復興+R基金に寄付となる取り組みも進めていますし、立命館大学生協同組合からは食堂での復興支援募金メニューの売上の一部を復興+R基金に寄付いただいています。

こうした寄付の総額につきましては、給与引き去りを可能な限り2013年6月までお願いしていることから、見込み額をお示しする形になりますが、現時点で約41,000,000円を見込んでいます。

引き続き、立命館の災害復興支援へのご指導ご鞭撻を賜りますとともに、復興+R基金へのご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上